

●平成12年度事業計画<平成12年4月1日から平成13年3月31日まで>

1. 獲得目標

本格的な事業展開を図る年度として、実行委員会及び設立準備会段階から積み上げてきた活動の成果を基盤に諸事業に取り組み、水島地域における環境再生に向けた地域連携(環境パートナーシップ)の形成をめざす。

2. 活動内容

(1) 環境再生活動の推進

②八間川をシンボルとした環境再生活動

平成11年度までの地球環境基金助成事業の成果を踏まえて、八間川の環境再生に向けた提言発表・交流シンポジウムを開催するとともに、同提言の実現に向けた関係機関・地域関係者との対話活動を進める。

②まちおこし“こだわり衆”の組織

昨年度に引き続き、商店街の若手経営者など、まちおこしにこだわって活動する人材の育成と交流を進めるため学習会や懇談会を開催する。

③水島地域環境再生計画の検討

財団の諸活動の成果を総合化するマスタープランづくりを、地域関係者や専門家の協力により進めていく。

(2) 公害被害に係る体験や教訓を活かす活動

①公害裁判資料の保存・整理方策の検討

昨年度に引き続き、倉敷公害裁判における原告患者や地域の公害反対運動に関する資料の保存・整理を進めつつ、第1次資料目録の作成をめざした基礎調査を実施する。

②地域の公害体験“語り部”活動

昨年度作成した公害被害体験の記録映画の活用方策等についてプランを策定するとともに、地元教育機関等を巡る上映会活動を進め、子どもらの感想文等を募る。

③コンビナート公害に関する経験の途上国への情報発信

昨年度に引き続き、全国公害患者の会連合会が実施している公害経験に関する途上国の環境NGOとの交流事業(地球環境基金助成)に協力する。

④地球環境市民大学校への協力

昨年度に引き続き、地球環境市民大学校の岡山県下での開催について、現地での運営に協力し、瀬戸内海でのコンビナート公害の経験を市民に広げること努める。

(3) 調査研究の推進

①コンビナート周辺環境改善に関する調査研究

昨年度に引き続き、コンビナートを抱えた水島地域の環境再生のあり方について、学際的かつ市民参加型の調査研究を進める。今年度は、昨年度調査を発展させ、水島地域の生産緑地の現状や機能等に着目した調査を実施する。

②瀬戸内海の環境再生に関する調査研究

昨年度に引き続き、コンビナート開発によって疲弊した瀬戸内海の環境再生について学際的かつ市民参加型の調査研究を進める。今年度は、昨年度から継続して、海底ゴミに着目して、陸域からの環境負荷が海域に与えている影響等を把握し、循環型社会の形成への課題を提示する報告書をまとめる。

(4) 広報・交流活動

平成11年度の事業内容を紹介し、各方面との交流を進めるための『年報』を刊行し、活用する。また、岡山県下の環境NGO等との交流を進める。